

モザイクコミック総集編

娼婦のお姉さんに誘われて

巨乳美女と
溺れる
甘美な快楽

キミは全部……
私に任せて♡

降りしきる雨の中
俺は酒場の男たちに
聞いた娼館に向かう

だが、間違った道を
教えられたのか
一向に着かない

そんな時、一人の
女に出会った――

その娼館は
真逆だねえ

でもキミは
幸運だよ――



だって、キミの
お目当てだっていう
ナンバーワン娼婦は

私だからね♡

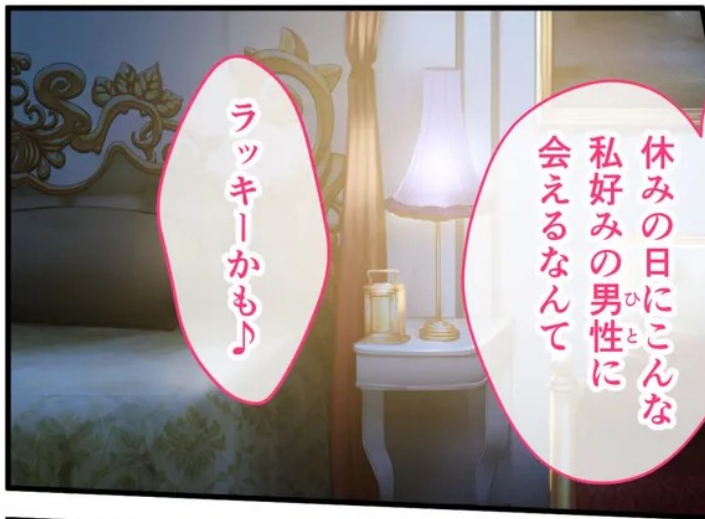


私はフイーネ

この娼館の
ナンバーワンの
娼婦だよ♡

俺はグランツだ

おっけー
グランツ君ね









こんなに優しくて
気持ち良くなれる
なんて……

今日フイーネさんと
会えて本当によかった

そんな真剣な顔で
言われたらあ
ズルすぎるよぉ♡

フイーネさん
俺もう……っ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ズ
ズ
ズ

びゅくびゅく
全然止まらないね

お腹の中、いっぱいになっちゃってる……♡

いい子いい子
よく頑張ったね

いっぱい出せて
偉いね……♡

ビュッ
ビュッ
ビュッ

翌日・酒場にて

は？ナンバーワン
じゃない、だと？

男たちによると
件の嬢は銀髪ではなく

サファイアのような
深い青だそうだ

俺は再び娼館に訪れた

あれ、グランツ君
今日も来たんだ

フィーネさん
どういうつもりだ？

気持ち良かった
でしょ？

あの時間はナンバーワンと
交わっていると信じて
気持ち良くなれたんだから

どう、って……
ああ、バレちゃった？
そんな怒らないでよ

とにかく、今日は
あんたを指名する
気はない！

ふーん、今度こそ
あの子を指名
できたんだ

それじゃお隣
失礼しまーす♥





お前、まさか
それを狙って……っ

それか、もしかしたら
挿入前に暴発とか

こんなに昂ってる
と挿れた途端に出しちゃ
うかもね……♡

一回の指名につき
一回の射○まで
ってことね

うちのナンバーワンは
一限制なんだよね



もちろんこの後の
お部屋でもたっぷり
してあげるのに♡

私なら、このまま
イかせてあげて

全然楽しめないで
終わりになっちゃう

せっかくの
ナンバーワン



出るッッ!!

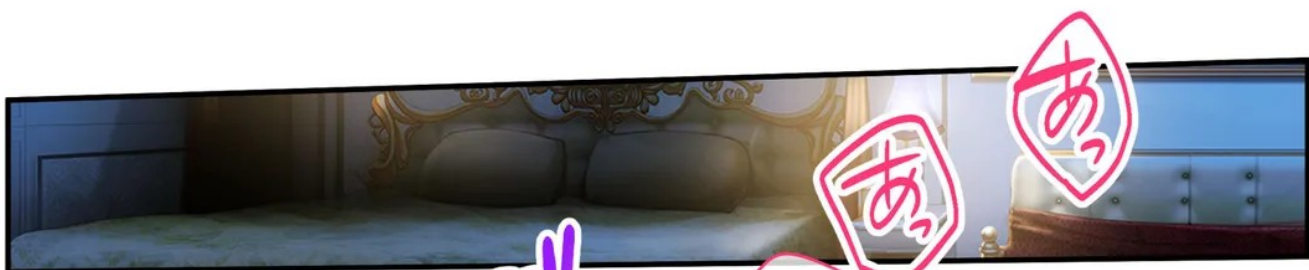
くうっああっ

一回スッキリ
しちゃおっか♡

よろしい♪
じゃあ約束通り

指名すれば
いいんだろ!?

分かった!
分かったからっ





今日は、私が
グランツ君を
一方的にする日

女を選べると思いがあって
この傲慢なモノを、私が
徹底的に搾り尽くす日♥

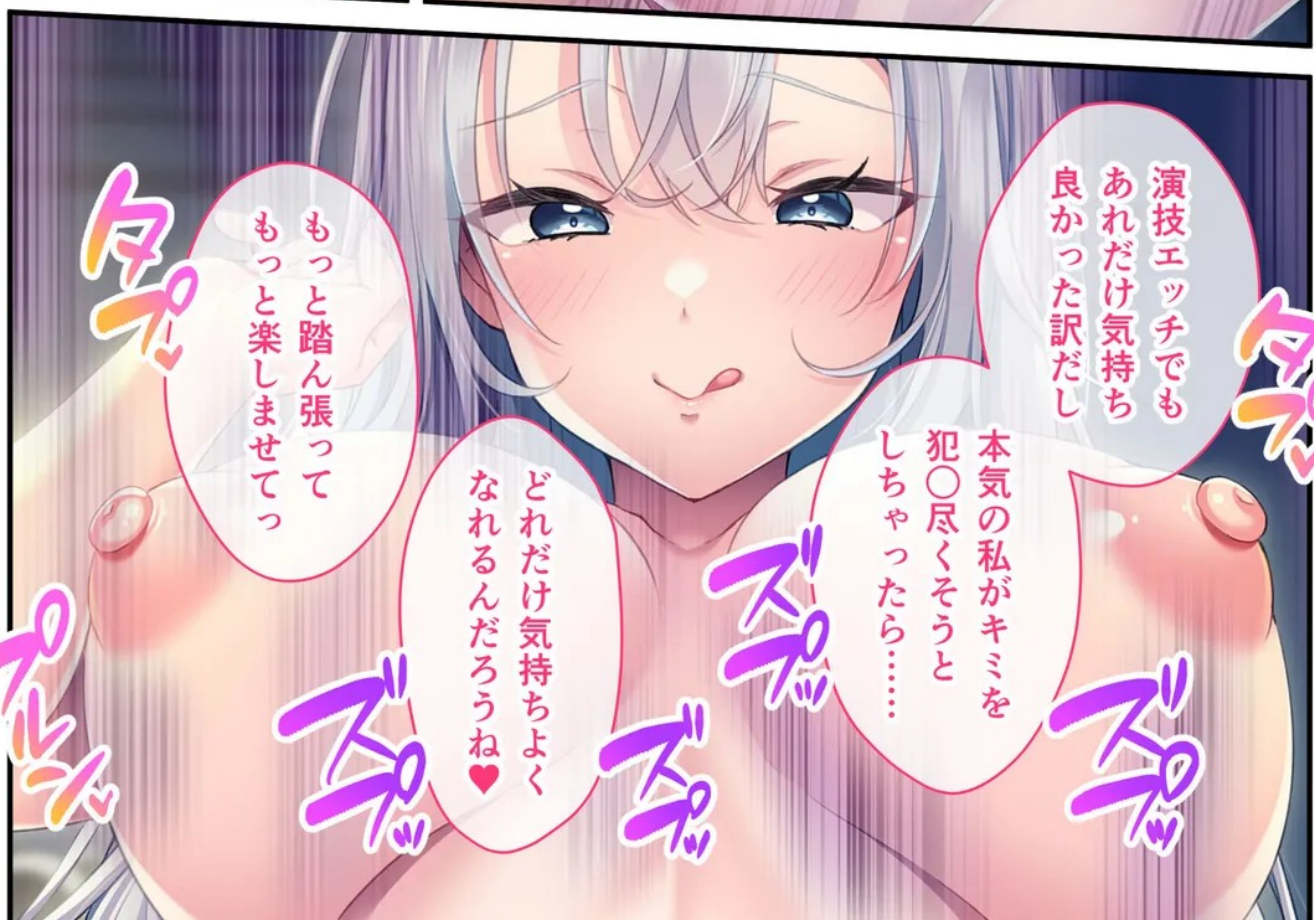


ぐあっ、なんでっ
もう出るのにつ

根元の辺りを
思いつき
締めつけたの

こうされると
出せないでしょ？

出せないでしょ？



演技エッチでも
あれだけ気持ち
良かった訳だし

本気の私がキミを
犯○尽くそうと
しちゃったら……

どれだけ気持ちよく
なれるんだろうね♥

もっと踏ん張って
もっと楽しませてっ

数日後、娼館を訪れた
俺の目に、男と言い争う
フィーネの姿があった

黒服を抱きこみ
クスリを飲ませられ
乱暴にやられたとか

そんな彼女にデートに
誘われて、俺は街に
来ていた

見てグランツ君
街がキラキラ

あとグワングワン
まわってる

もしかして
まだクスリ――

わかってるから
今は楽しませて？

……ああ

ありがと♪
でもいいかな

娼婦になんか
優しくしても
得は無いしさ

あ、グランツ君
見てあの服っ

あはは、なーに
あの変な服

いい素材なのに
すっごく派手

どこかのお貴族様が
着てそうだな

ねえ、これどう？
私の雰囲気
ピッタリじゃない？

ああ、似合ってる
買ってやろうか？



なあ、下半身が
スースーして
落ち着かないんだが

大丈夫、大丈夫

動いてれば勝手に
寒くなくなるよ



ほら、さっきみたく
痕が残るくらい
激しくしても――

って、それはキミ
じゃないっけ……

おいっ、あんまり
大きな声を出すな

衛兵とかに
バレちまう
だろっ



えへへー、その時はあ
その人達とも一緒に
やれば気持ちいいよお♡

強引なの
好きっ！



いいよ、イイっ
もっとお仕置きしてえっ

そうやって
もっとお激しくっ

乱暴に腕
掴んでえ！

お望み通りに
やってやるよ！



ああっ、これえ♡
これこれこれえっ！

イヤなのに！
目がチカチカって
してえっ♡

気持ちいいのおっ♡



無理やり、メスの
本性刺激されて
来ちゃううっ

ナカ、とろとろで
溶けるみたいだっ

一緒に溶けちゃお？

キミので上書きして♡
消えないくらい
刻み込んでえ——っ



その後、落ち着いた彼女は
クスリを使った男について
話してくれた――

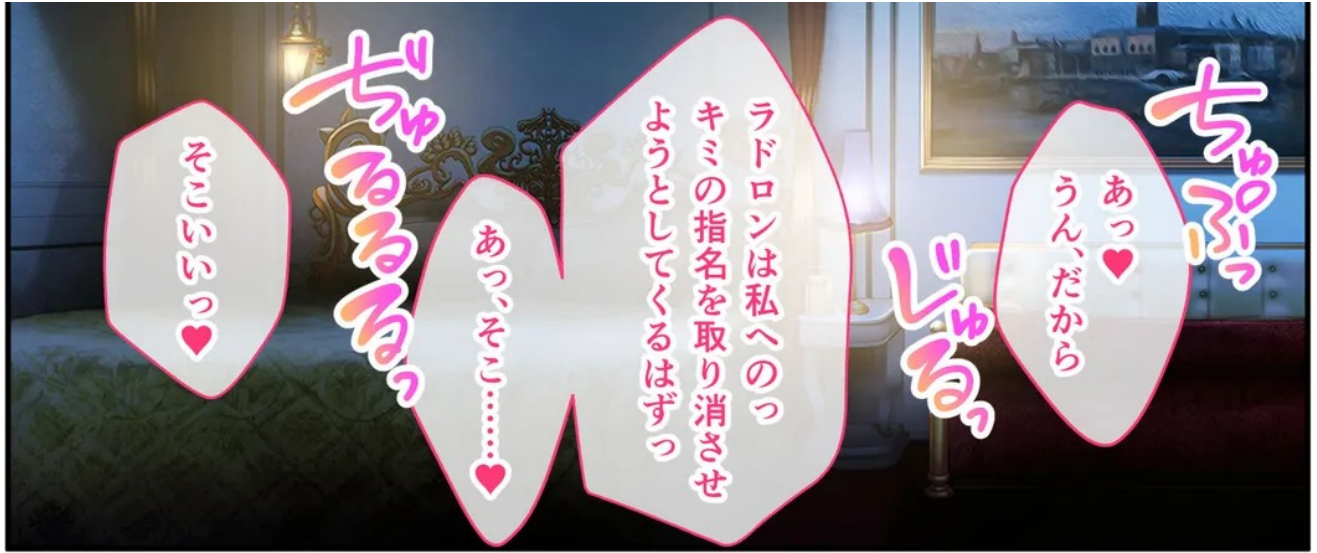
件の男、ラドロンは
金持ち商人のドラ息子

俺と会うひと月前に
フィーネを身請けすると
突然言い出したらしい

今月末までに一人でも
客を取れたら身請けを
ひと月待つと言われ

俺は男との賭けに勝つため
駒にされたということだが

俺は彼女らしいなと
その強かさ^{した}に納得した





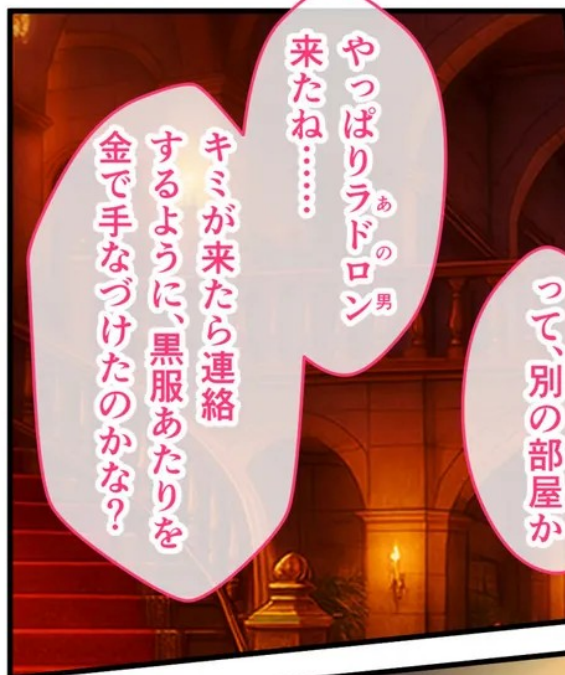
ファイーネえ!
来てやったぞッ

ひゃあッ

って、別の部屋か

やっぱりラド^あの^男
来たね……

キミが来たら連絡
するように、黒服あたりを
金で手なづけたのかな?



ここかあッ
ファイーネえ!

いいから
キミはこっちに
集中してっ♡

おいっ
どうすんだ!?

ったく……



そそるんだよね

これはこれで
なんかくるっていうか

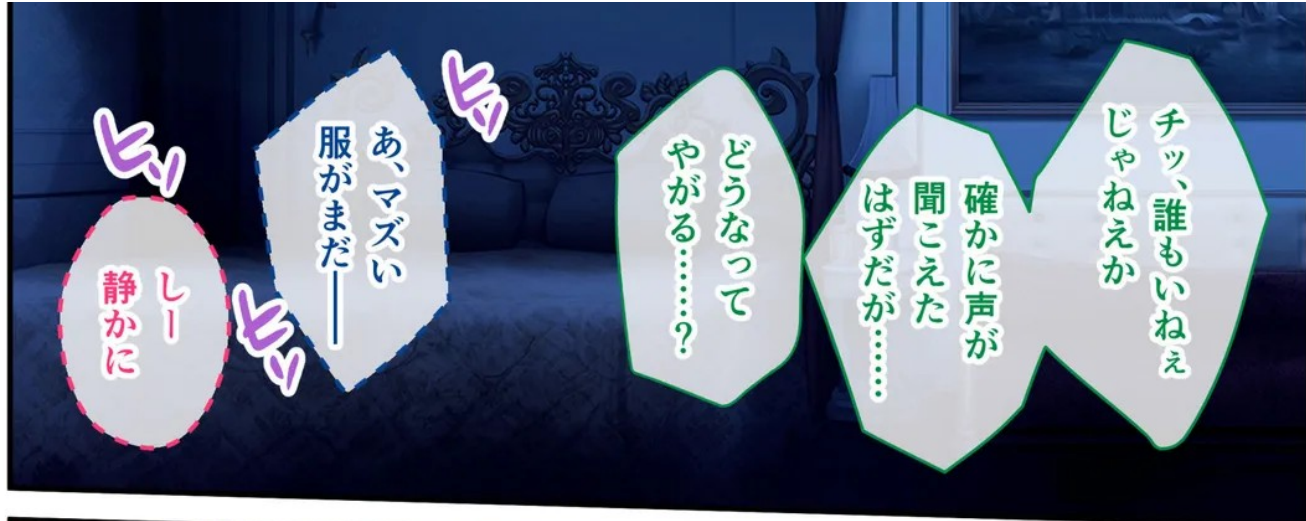


ああ、これえ♪

テクもなにもない男が
ひたすら頑張ってる
この感じ……っ

ぢゅぽっ







あんっ♡
ナカでビクビク
跳ねてるう♡

声出しちゃ
だめだよー？



んっ♡
かったいの
きたああ♡



大丈夫
わかってる
ってば♡

そんなに喋るなよ
あいつに聞こえるぞ

ゆっくりなの
すっごくいいっ♡

あはっ、絶対バレちゃ
ダメな状況ですもの
すっごいクる♡



キミも気持ち
よかったー

……いった
みたいね



チッ、ここにも
いねえか……

フィーネのやつ
どこにいたんだ

今日はフィーネを
指名して四回目の日

つまり指名取消しの
期間が終わり、フィーネは
客をとれたことになる

って、ここ客が入って
良い場所なのか？

今日は特別よ

ラドロンの手下は私が
キミとオプシオンで
外出してると思って

外をうろついて
いるんだから





ヒトの性器をケダモノ
みたいに言わないでよ

ちよつとー



ナカきつっ！
食いちぎられ
そうだっ

硬いのっ
入ってきたあ♡



どれだけでも
突きまくれる
感じがするよっ

なーに？、そんなに
このバニー衣装が
いいんだ？

ってか、今日は
キミのおつき
すぎるんだからね

もめっ
もめっ



そっか、そりゃ
フイーネさんに
ぴったりだなっ

言ってるような
ものだよねー♡

これ着てる女も
うさぎみたいに年中
発情中ですよー、って

バニー衣装って
うさぎが年中発情期
だからなんだって

もめっ♡

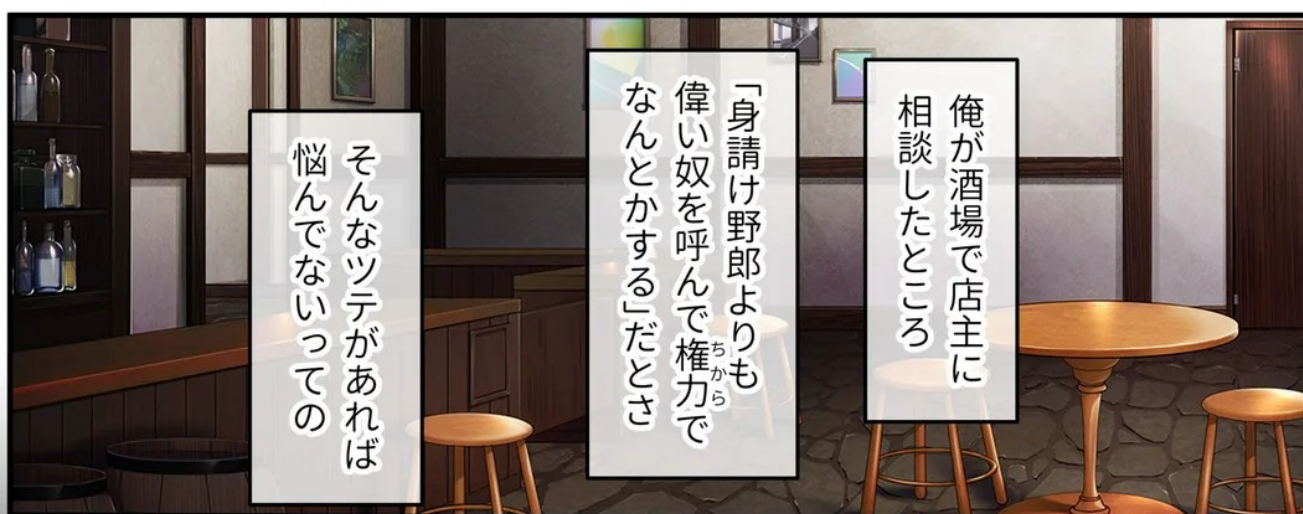


バニー衣装での事後
ラドロンはフィーネとの
賭けを無効にし

三日後に身請けを
すると宣言した

俺は反抗したが、すでに
店側とも話が付いている
ため黙るほかなかった

俺はフィーネさんに
空元気のように明るく
お別れを言われた――



俺が酒場で店主に
相談したところ

「身請け野郎よりも
偉い奴を呼んで権力ちからで
なんとかする」だとさ

そんなツテがあれば
悩んでないっての



……ちやま
坊ちやま……

制服のまま横になっては
シワが出来てしまいますよ

わかったよ
脱げばいいんだろ？

いえ、これもメイドの
仕事ですので――

そういうと、~~その手つきで~~
いつもの手つきで
下着ごと脱がした



いや、なんで下着まで
脱がしてるんだよ!

こんなに大きく
してしまわれた
のですから

むにゅ

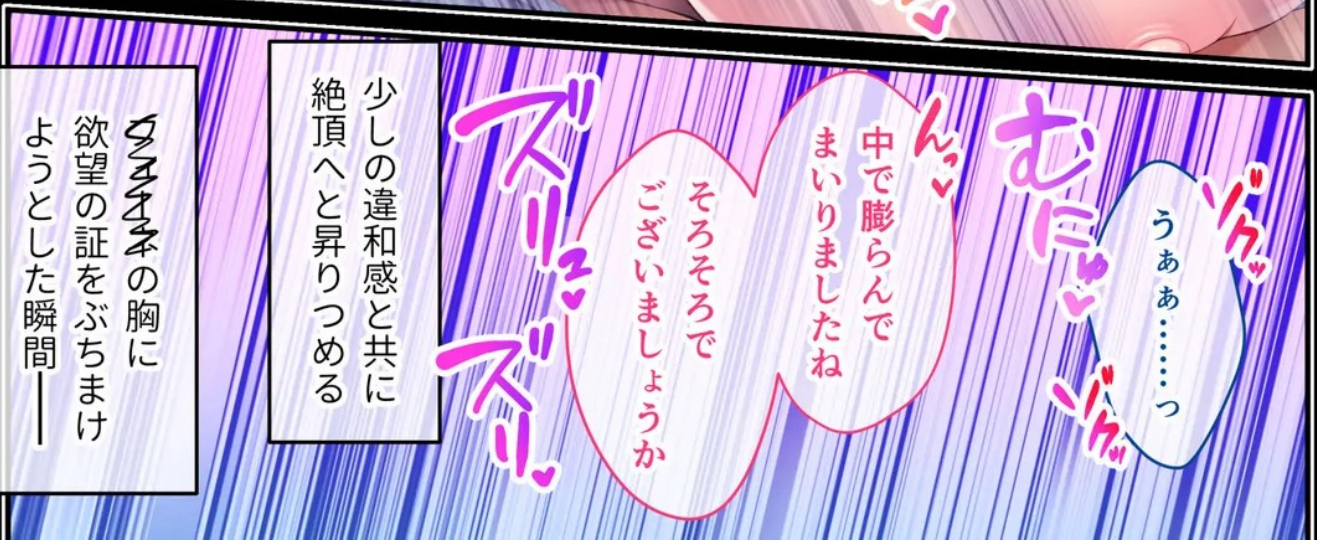
本日は胸で奉仕
いたしますね♡



そもそもこんな
エロいメイド
家にいたっけ?

みっちりと脂肪の
詰まった柔らかい
胸に包まれる感触で

ご存分に出して
くださいませ♪



うああ……っ

中で膨らんで
まいりましたね

そろそろで
ございましたか

少しの違和感と共に
絶頂へと昇りつめる

お嬢様の胸に
欲望の証をぶちまけ
ようとした瞬間――



——あれ、この
ネックレス……

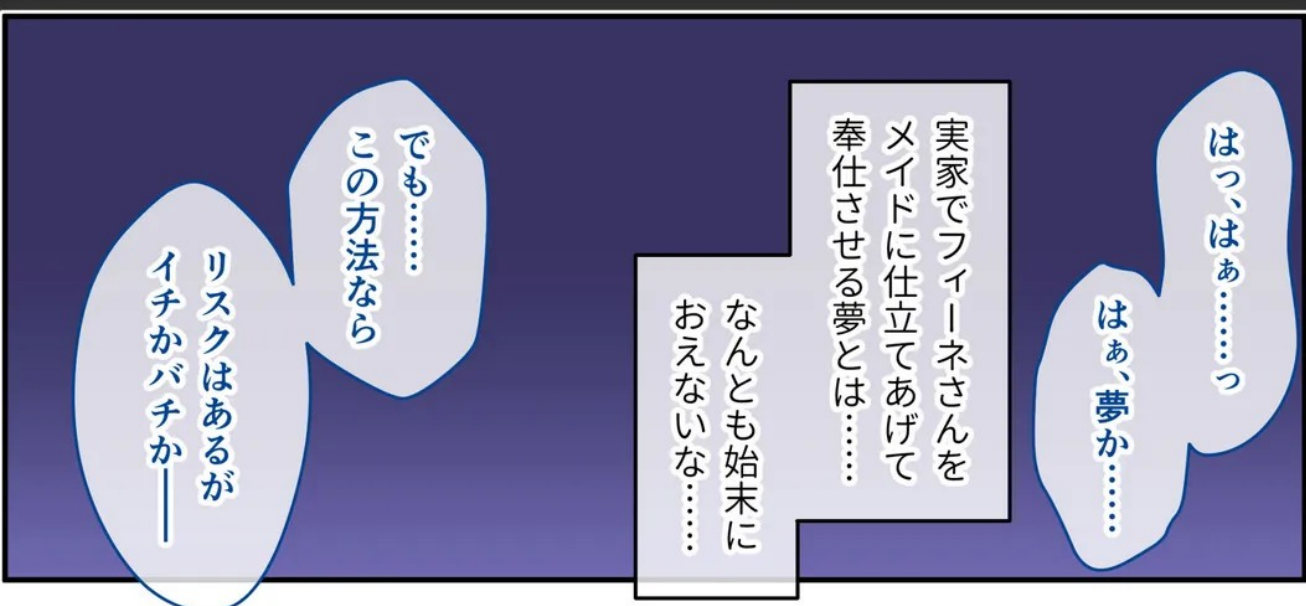
前からそんなの
つけてたっけ？



何言ってるの？

これ、君が買って
くれたんじゃない♪

ッ



はっ、はぁ……っ

はぁ、夢か……

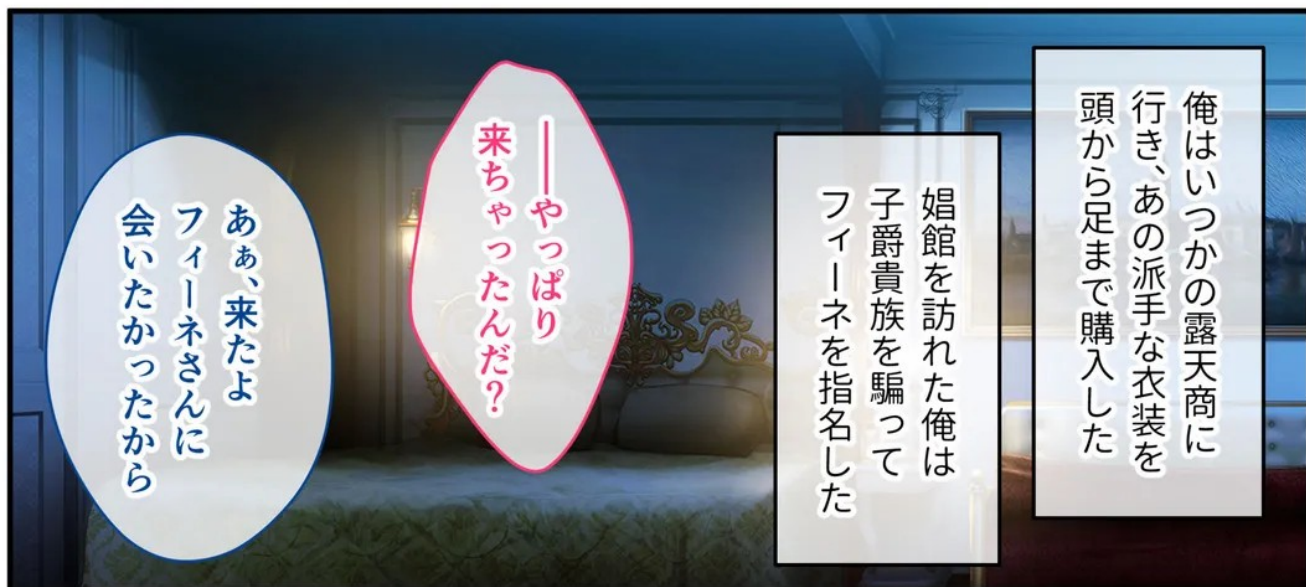
実家でフィーネさんを
メイドに仕立てあげて
奉仕させる夢とは……

なんとも始末に
おえないな……

でも……

この方法なら

リスクはあるが
イチかバチか——





馬鹿で、無鉄砲で
お人好しなキミに

ごほうび……
みたいなの？

ほら、キテ♡



ちよつと
流石に
顔見すぎ♡

顔、あつっ……♡



んっ♡
んはあぁっ



ん、ちゅっ♡

れう、れるう♡

舌使いも手慣れてるし
キミ、実は経験豊富？

んちゅ、誰かさんの
今までの指導の
賜物だよ……っ

……あ、そうだ

どうしたの——



似合わないキザなマネ
してくれちゃって♡

なに、それ……



これ……っ

これは、変装の
ためじゃなくて

フィーネさんの
ために買ったんだ



俺がフィーネさんに
贈りたいんだっ！

キゅ

報われるとか
じゃないんだよっ

ほんとに
分かってる？

報われないんだよ？

私みたいな女に
優しくしたって
なんにもならない



……っ♡

ほんとキミはっ……♡

ばかあっ♡
もう知らないっ♡

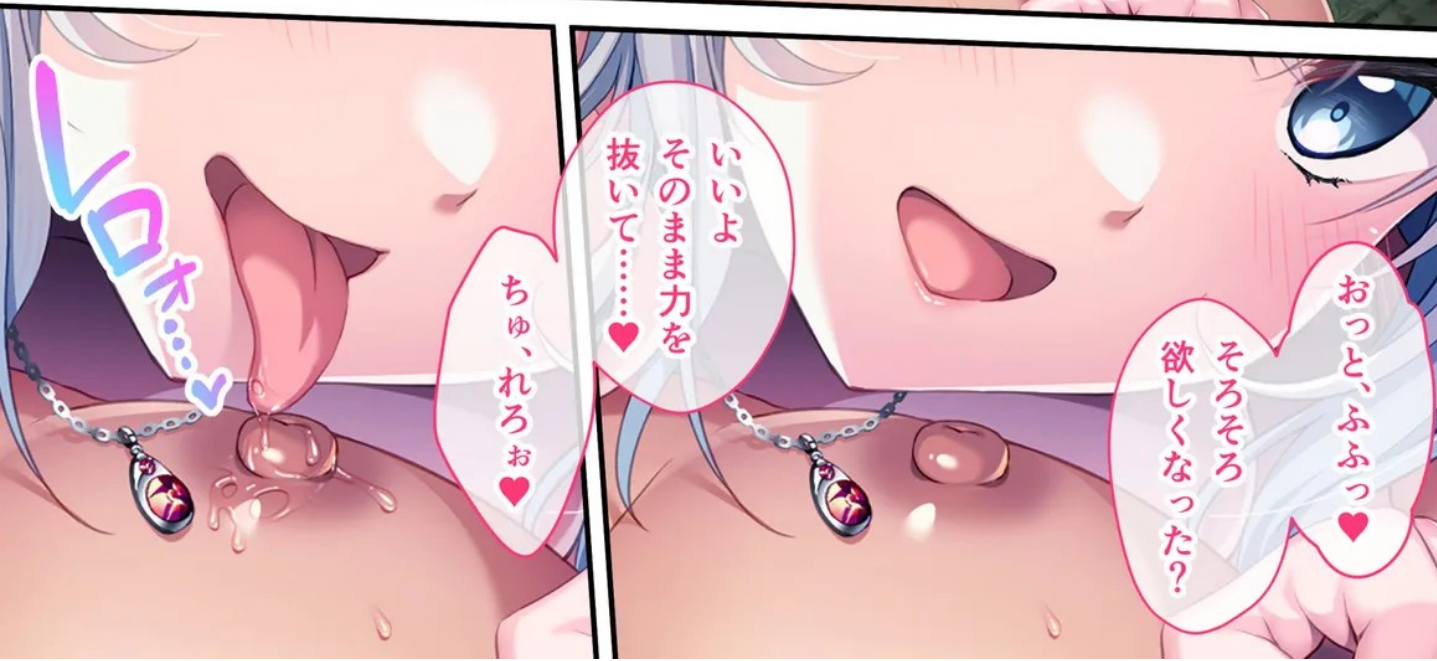
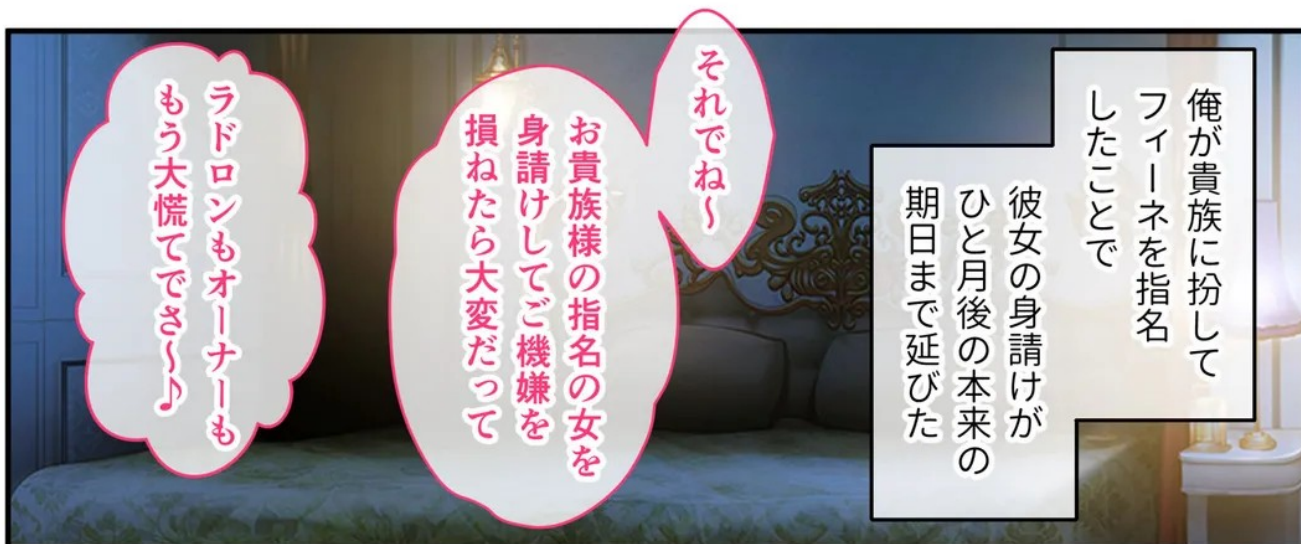
あぁ♡

ズッ

あぁ♡

グラブくんっ♡
はげし♡





そういえば入り口が騒がしかったが……

まさか「お貴族様」の件でなにか――

ん？ ああ
ランキング争いの所為かもね

上位になれば色々
優遇あったりするし

みんなこの時期は
特に頑張るんだよ

私は別に何がしたい
訳でもないし……

そもそもしたくても
できないしねー

……だったら

一緒に脱走するか？

そんな言葉が喉まで
出かかって飲み込んだ

万が一失敗すれば
ただでは済まないし

俺なんかと一緒に
逃げ出したところで

果たして彼女を
幸せにできるのか？

キミが悩む事
なんてないよ

いつもみたいに
気持ち良くなって？



限られた時間というのは
すぐにやってくるもので

延ばされたひと月は
瞬く間に過ぎ去り

明日の朝には
フィーネさんは
身請けされる

その前夜である今
娼館では「祭り」が
開かれている

フィーネさん曰く
ランキング争いに関わる
最も重要な日、だそうだ

グランツくん
次の「公開プレイ」

私と一緒に舞台に
あがってね♡

こ、こんな大勢の前で
するの？お、俺も？

きみは私のだもん
他の誰にも
渡したくないし♡

私達の番だよ
さ、いくよ、おいで♪

本当に、するの？

大丈夫、いつも通り
今を楽しもう♡

おおっバニーちゃん
エロいケツしてるじゃ
ねーか！





ステージから降りて
俺たちは人目に
つかない所に来た

フィーネさん
ここから逃げよう

ラドロンも追っ手も黒服も
誰も来ないどこか遠い所まで
逃げて、二人で暮らそう！

……はいっ
私をここから
連れ出して？

俺とフィーネは
娼館の祭りの喧騒に
まぎれて抜け出した

身請けの前夜だし
ラドロンも部下で
監視させているかも

ということ、俺たちは
ロングコートを着て
道なき道を進んでいく

土砂降りのおかげで
視界がわるいし足跡が
目立たないのも幸いだ

森をしばらく歩くと
廃墟があったので
そこで休憩にした

フィーネさんもそろそろ
体力がキツそうだったしな

こ、こんな所で
するのか？

ほら、もっと
くっついてよ♡

そう、雨に打たれて
冷えた体を温めるの♡



キミのこども
準備万端じゃん♡

この硬あいで
中から温めて
ほしいなあ♡

うぐ……

それに、ふふっ

わかったよ
挿れるぞ……

むにゅ♡



やっぱり俺は
二人つきりで
するのが好みだ

奇遇だね
私も……♡



んちゅ……っ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅ……っ♡



ああん
はいっ
またああ♡

冷えた体に
こんなあつっいの
ヤケドしちゃうわ♡

ズググ





なんか私、いま
すごく昂ってえ！

俺もだっ！
出すぞフィーネっ



それから俺とフィーネは
指名手配でもされてるかの
ようにひっそり行動した

あの街から離れるほど
追手も見かけなく
なっていき……

俺たちはやがて
山をいくつも
超えた先にある

小さな開拓村に
滞在するように
なった――



あん♥
どうしたの？

腕を縛るなんて
珍しいじゃん

……嫌か？

全う然っ
っていうか

もっとキツく
縛らないと
解けちゃうよ

フイーネが痛いのは
本意じゃないから

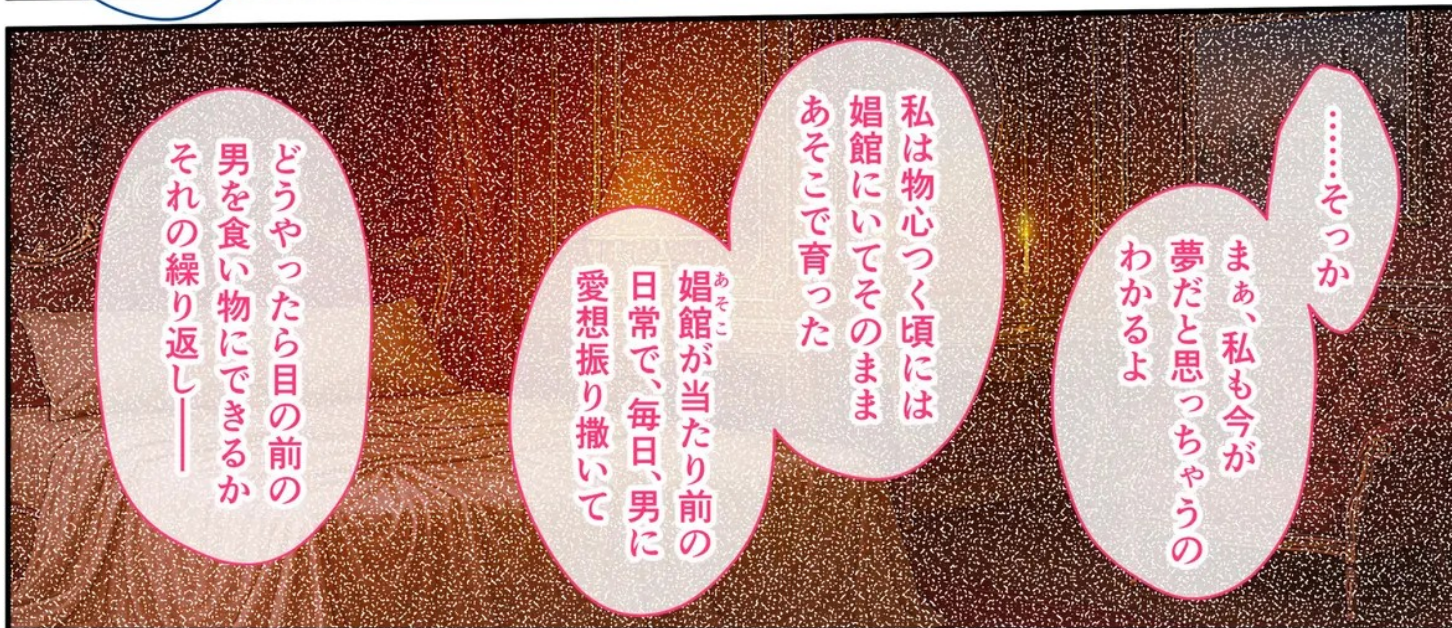


……たまに
不安になるんだ

この日常が夢
なんじゃないか

本当はフイーネを
守れずに現実逃避の
夢を見てるんじゃないか

瞬きをした瞬間
フイーネが消える
んじゃないかって



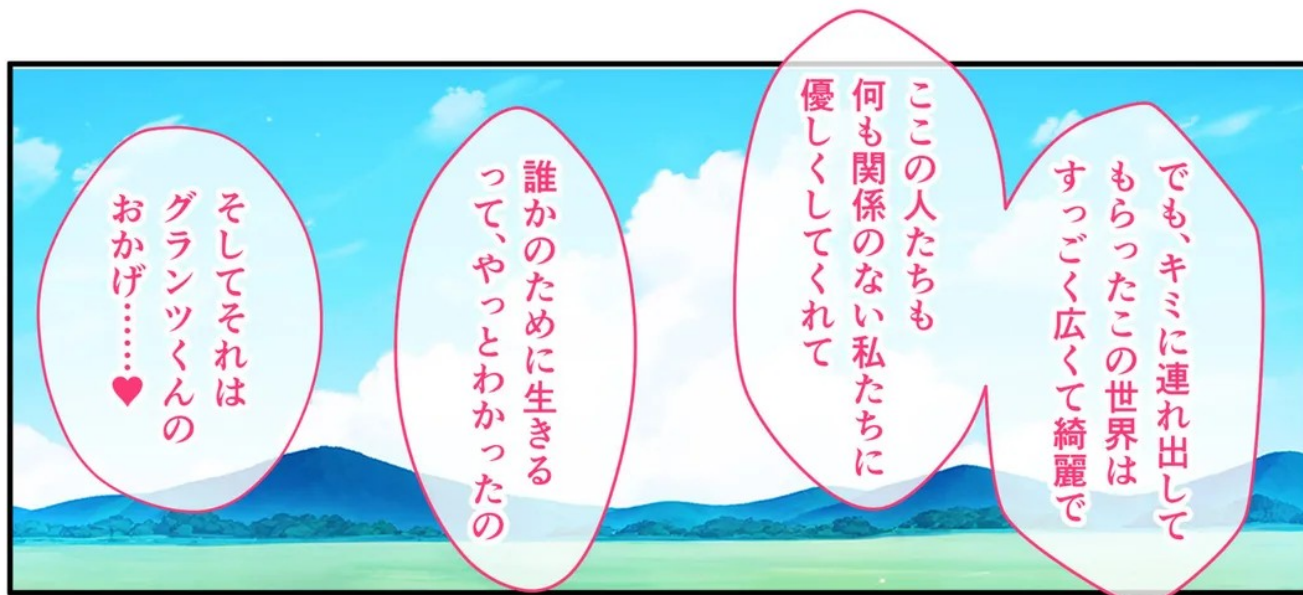
……そっか

まあ、私も今が
夢だと思っちゃうの
わかるよ

私は物心つく頃には
娼館にいてそのまま
あそこで育った

あそこ
娼館が当たり前の
日常で、毎日、男に
愛想振り撒いて

どうやったら目の前の
男を食い物にできるか
その繰り返し――





©アパタイト